

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 9月分 各業界からのコメント

◎建設業

- ・現状における人員は充足しているものの、将来を担う若手の採用が全くできない。求人を出しても応募が1件も無い状態が数か月続いている。
- ・新卒採用、中途採用が思うように進まず人員不足。人件費の高騰、機器資材の高騰、諸物価高騰のところへ借入金利の利上げが発表。影響は大きい。
- ・原材料高騰、人手不足が深刻な状況に加え、物価高で社員の給料も賃上げしたいが、なかなかうまくいかない。
- ・民間の建設需要は旺盛であり、価格転嫁も進み始めている。人手不足と2024年問題による営業機会のマッチングや生産性向上への工夫が課題。電気・設備工事業界の供給不足も継続課題。

◎製造業

- ・物価高、電気ガス等の値上げラッシュで国民が頭を悩ませているときになぜ追加利上げが発表されたのか疑問を感じる。新NISAも定着しない、物流が変わり運賃の問題等、最低賃金もままならない中小零細企業の実態も知ってほしいと思う。

◎卸売業

- ・今夏の猛暑、先日の台風10号により、品質の劣化や収穫量の減少が見られる。米の品薄観もあり、青果物の値動きも高値で推移している。今後の天候、とりわけ秋の台風の動きが心配される。
- ・商品価格は上昇していくため、売上高はプラスとなるが経費面ではすべての価格が上昇し、更に借入金の支払い利率が上がるため、採算はマイナス気味になる。
- ・公共資材卸売りは、「冬場前」工事完成目指し、引合い増。

◎小売業

- ・天候の悪化により、売上に影響を与える。
- ・9月は8月の台風10号や日向灘の地震の影響を受け、防災・補修用品のニーズの高止まりが予想される。また昨年9月は、残暑により秋の園芸等の外作業に遅れが生じ、除草剤の販売も低調に推移した。今期は足元の動向からみても、園芸・農業用品・除草剤・殺虫剤の動きも前年を上回っており、今後も期待ができる。また、これまで円安の影響で、輸入商品の仕入価格の高止まりが続いていたが、直近では円高に推移しており、これまでの為替の影響による粗利の低下は少なくなると見込む。

◎サービス業

- ・昨年10月の最低賃金アップに伴う価格転嫁対応が順調に進んでいない中で今年も最低賃金がアップすることが決まり厳しい経営環境が続く。政府の経営支援策の拡充に期待したい。中小企業の今後が大変心配だ。
- ・光熱費等の値上げ・加えて物価上昇により今後の先行きが見えない中、今まで通りの利益を確保するには厳しくなってくる。
- ・異常気象並びに物価高により、タクシーへの乗り控えを感じる。このところの円高がエネルギー価格にどの様に反映するか、一日も早く安定した価格の導入を期待する。
- ・1月からの特需で予算ベースでは達成が続いてきたが、9月に入り特需が激減したため、ここからは通常営業で勝負していかなければならない。しかしながら肝心な人流が減少しており、厳しい勝負となりそう。
- ・台風10号による大雨の影響が長引き、関東・東海の事業所で通行止めなどにより配送業務に影響が生じた。温暖化によりこれからも異常気象が続くと思われるため、早めの情報入手と情報発

信を心がけたい。

- ・顧客からの作業依頼は十分に有るが、人材の不足でお断りせざるを得ない作業も有る。業績としては前年と比較しても好調であることから、通常年度末に行っていた什器備品及びPCやサーバなどの機器の入替についても前倒しで行う予定。
- ・10月に一部材料の価格改定が決まっており、価格転嫁しないと厳しい。